



担当=DZHフィナンシャルリサーチ・石原敬子

トムソン・ロイターのフィナンシャル・リスク部門の名称はRefinitiv(リフィニティブ)に変わりました

知りたい
投信 なるほど
リップパー

運用成績で振り返る2020年

新型コロナの急落相場 IT頼り

2020年の投資信託の運用成績は、新型コロナウイルスに振り回されました。感染症の流行が世界で最初に確認された中国では、2月に株価が急落。2月下旬からは他の国や地域へ波及し、3月に底をつけたかと思えばあっという間に上昇。ワクチン開発への期待や、各国の財政出動で、1年が終わってみれば日経平均株価もバブル期以来の高水準となりました。

投資対象別に年間の騰落率を単純平均し、主要な分類を大きい表にまとめました。株式運用の投信はおおむねプラス。ただ、新興国投資など純資産残高が小さく、表に入らない分類では値下がりも。債券型は投資対象によってまちまち、リート型は地域を問わず大幅な下落でした。

目を引くのはIT（情報テ

クノロジー）関連株投信の好成績です。リモートワークやオンライン授業など、情報通信サービスへの期待に、ゲームといった巣ごもり需要も加わり、関連産業の株価を押し上げたためです。

個別の投信の騰落率は、長期投資をおすすめしている私の視点から、5年間で集計しました＝小さい表。昨年9月末時点の前回集計と比べIT関連投信の順位が上昇。表の5投信を含む上位10投信のうちIT関連は6本。騰落率トップの「DIAM新興市場日本株ファンド」も日本の中小型株に分類されていますが、その中身は12月末時点で情報・通信業を61.01%も組み入れています。地域や企業規模を問わず、IT銘柄に期待が寄せられた年だったといえるでしょう。

■投信主要分類別の年間騰落率（2020年12月末時点）

投資対象（リップパーによる分類）	年間騰落率（%）	純資産残高（兆円）	
株式	業種別 IT（情報テクノロジー）	52.16	6.24
	日本 中小型株	16.81	0.68
	米国	16.79	3.16
	グローバル	16.71	6.09
	業種別 ヘルスケア	13.60	0.63
	日本	11.86	7.56
	グローバル 除く日本	9.51	3.72
	エマージングマーケット グローバル	6.79	0.60
	インド	3.86	0.66
	業種別 公益	-5.01	1.10
債券	豪ドル	6.59	0.65
	グローバル 日本円	2.99	5.84
	グローバル 社債 日本円	1.97	0.73
	日本円	-0.86	3.00
	米ドル ハイイールド	-2.49	1.17
ミックスアセット	日本円 積極型	3.75	1.20
	日本円 バランス型	3.20	2.80
	日本円 安定型	2.38	2.47
	日本円 フレキシブル型	2.16	3.85
リート	グローバル	-13.07	1.56
	米国	-13.98	1.95
	日本	-14.06	2.58

純資産残高が10億円以上の上場投資信託（ETF）、オルタナティブ型を除くオープン投信について集計。騰落率は分配金（税引き前）を再投資したとして計算。ミックスアセットは、株式の割合が65～10%を積極型、35～65%をバランス型、0～35%を安定型としている

■運用成績トップ5（2020年12月末までの5年間）

順位	ファンド名	騰落率（%）
1	DIAM新興市場日本株ファンド（アセットマネジメントOne）＝申込受付を停止中	238.29
2	東京海上・ジャパン・オーナーズ株式オープン	185.11
3	野村クラウド関連株式投信 Aコース（為替ヘッジあり）	181.71
4	野村世界業種別投資シリーズ（世界半導体株投資）	176.28
5	野村SNS関連株投資 Aコース	175.06

純資産残高が10億円以上のオープン投信で、上場投資信託（ETF）とオルタナティブ型を除く。騰落率は分配金（税引き前）を再投資したとして計算